

昭和52年度 和歌山県文化功労賞

たつみ
巽

さぶ ろう
三 郎

住 所：和歌山県日高郡印南町

出 身 地：奈良県

生 年：大正3年

◎業績及び経歴

昭和13年東京医科専門学校卒業、父の影響もあり小学生の頃から考古学に興味をもっていたが、五条中学当時考古学に熱心な教師にも刺激され、考古学者を志したが果たさず、昭和21年内科医院を開業するかたわら埋蔵文化財の保護、保全に努めた。

その間、昭和25年日本考古学会に入会、研究が認められ同32年日本考古学協会員に推された。また同年和歌山県・和歌山市・御坊市の文化財専門審議会委員を委嘱されているほか、和歌山県立紀伊風土記の丘資料展示の企画指導や、建設準備の一員でもある。そのほか、昭和34年には南紀考古同好会を組織し会長となっている。

発掘調査報告には、有田郡広川町「鷹島遺跡」・東牟婁郡那智勝浦町「下里古墳」などがあり、著書に「秘宝熊野」（講談社）高野山奥の院地宝の編集、季刊「熊野路考古」などがある。これらの業績が認められ昭和40年文化財保護の功労により和歌山県教育委員会より教育功労賞を、文化財保護法制定20周年記念のおり文化財功労者として文化庁長官から表彰を受けたが昨年はまた文化財保護の啓蒙普及の功による藍綬褒章を受賞した。